

平成29年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会派名	会派みらい	支出伝票No.	
事業名	先進地視察 岩手県花巻市の朝ごはんプロジェクト 旅館と農家の取り組みについて		
事業区分 (該当へ〇)	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

岩手県花巻市の、旅館と若手農家の取り組みを調査し、観光と農業の連携の1つの方法、とりわけ若い人の地域への向き合い方を注目を学びたい。

(2)実施概要

調査・研修の場合の 実施日時と 訪問先・主催者	日時	訪問先・主催者等
	平成29年8月21日 10時～12時	「はなまき朝ごはんプロジェクト」岩手県花巻市湯の杜ホテル常務久保田龍介さん他4人
報告内容 ・実施したこと	1 視察先（市町村等）の概要 岩手県花巻市 岩手県の南部に位置し、人口約10万人、 2 視察内容 「はなまき朝ごはんプロジェクト」 ・花巻温泉郷の3軒の温泉宿の仲良し若旦那が集まり、2014年7月にスタートした。 ことしの夏には5件となった。 ・花巻の観光PRのため、農業という面から魅力を発信していくことが目的。 ・旅館と農家と一緒に花巻の魅力発信に挑戦している。 ・県のファンドを利用している。 プロジェクト発足の背景 遊興型団体旅行から体験型個人旅行への変化。 農業という側面から花巻の魅力を発信。	
感想（まとめ） ・市に活かせること等	視察のまとめ ・同年代の若者（旅館の若手経営者と農業青年）の知恵を生かして、頑張っている。 ・すぐに結果を求めるような「拡大路線」をとるのではなく、農家の想いを共有してお互いの可能性を深めようとするプロジェクトの理念が活動の源になっている。 ・農業と観光は「その土地の来なければ、本物は味わえない。」を実感している。 今後の課題 ・お土産品の開発などを進める。 ・このプロジェクトの持続性。（財政面や行政との連携）	

(3) この事業実施後の対応及び方向性

・会派内で検討し、農業と観光の連携について、飯田市でもどのようなことができるか検討したい。

平成29年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会派名	会派みらい	支出伝票No.	
事業名	先進地視察 青森県鱒ヶ沢町のフィールドスタディの取り組みについて		
事業区分 (該当へ〇)	①調査研究費	②研修費	③広報費
	④広聴費	⑤陳情等活動費	⑥会議費
	⑦資料作成費	⑧資料購入費	⑨人件費
	⑩事務所費		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

飯田市でも「学輪いいだ」の取り組みが行われている。学生の英知と地域資源を生かした鱒ヶ沢町の取り組みに学び、飯田市の同様の取り組みの参考にしたい。

(2)実施概要

調査・研修の場合の	日時	訪問先・主催者等
実施日時と 訪問先・主催者	平成29年8月22日 9時30分～11時30分	青森県西津軽郡鱒ヶ沢町政策推進課課長 課長 小笠原忠氏ほか2人

報告内容・実施したこと	<p>1 視察先(市町村等)の概要 青森県 鱒ヶ沢町 人口9712人。日本海と白神山地に挟まれた町。</p> <p>2 視察内容 「あじがく」 都市学生の活力による地域活性化と弘前大学とのマッチング 平成25年度スタートの「地学連携」地域活力創出モデル実証事業(総務省の支援事業) 地域と大学の連携による地域づくり 具体的な事業 平成25年 高齢者の買い物調査、提言(東北学院大学) 平成27年 旧陸軍兵舎の調査、模型製作(東北工業大学) 平成28年 旧陸軍兵舎をテーマにフォーラム開催(東北工業大学) バス待合所(バス庭)を制作(東洋大学)</p>
	<p>感想(まとめ)・市に活かせること等</p> <p>まとめ ・提言だけでなく「町に残せるもの」「見えるもの」をめざしている。 (バス庭)町の負担は300万円 ・大学側の「こういう活動・研究がしたい」というニーズと地域の「こういうことを調べてほしい、こういうことの困っている」というニーズを結び付けている。</p> <p>飯田市で生かせること ・フィールドスタディの「地域還元版」として参考になる。 実際に建設物として「見える化」となっている 方法として地域・大学のニーズを合致させている</p>

(3)この事業実施後の対応及び方向性

飯田市で同様の取り組みを行っているが、参考になることについて会派で論議して、要望していきたい。

平成29年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会派名	会派みらい	支出伝票No.	
事業名	先進地視察 北海道 七飯町 地域資源を生かした観光事業について 「どさんこミュゼ株式会社」		
事業区分 (該当へ〇)	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

地方再生の要である地域資源の活用について、自然・歴史を活かす農業法人に学ぶ。
規模は異なるが飯田市にも存在する地域資源の生かし方についてヒントを得たい。

(2)実施概要

調査・研修の場合の	日時	訪問先・主催者等
実施日時と 訪問先・主催者	平成29年8月23日 9時30分～11時30分	北海道亀田郡七飯町 「どさんこミュゼ株式会社」 経営管理部長 大藤 将太氏

報告内容・実施したこと	<p>1 視察先(市町村等)の概要 北海道七飯町函館から20キロ(大沼国定公園の近く) 「どさんこミュゼ」とは 北海道開拓の歴史を背景としたこれまでにない体験観光プログラムの開発と集客の手法を用いたブランド化及び商品の高付加価値化を図る事業。</p> <p>2 視察内容 開発の経過 平成元年 JR 北海道によるリゾート開発で土地買収 平成15年 JR 北海道が開発を中止。 平成22年 JR 社員だった大藤将太氏が農業生産法人を設立。 農水省のファンドを使って観光と連携した農業をめざす。</p> <p>経営理念 地域に根差した在来馬を中心に、過去の開拓から学び、人が自然と動物と共同する新しい未来「21世紀の開拓」を世界に提案する。 動物を通して自然を考える。命に対する意識を高める。 ◎サービスの6次産業化を進めたい</p>
-------------	---

感想(まとめ)・市に活かせること等	<p>まとめ ・観光事業は点としての取り組みのみならず、面として特定のテーマやストーリー性を持つことが非常に重要である。 ・北海道新幹線の開通を契機に地域の一体性をもちながら北海道全体の観光産業振興へもつなげようとしている。</p> <p>飯田市に生かせること ・リニア新幹線の開通を前に飯田下伊那の自然を生かした取り組みが求められる。1つのヒントとして検討していきたい。</p>
-------------------	--

(3)この事業実施後の対応及び方向性

・今後の飯田・下伊那のリニア新幹線に関する取り組みに生かしていきたい。